

私たちの町の遺跡 大名墓物語 細川家の人々

■第12話 墓石と夫婦愛

妙解寺（みょうげじ）跡にある肥後細川家7代藩主細川治年（はるとし）の墓石。五輪塔ではあるのですが、本来の形とは異なり、ゴテゴテした、変わった形をしています。その理由とは・・・

大名家の墓は、通常、国元の他にも江戸や縁（ゆかり）の地にもあって、治年の墓石は、江戸における細川家菩提寺—東海寺にある細川家墓所の墓石と同じ形なのです。当時の江戸では、石工が意匠を凝らした装飾的な形の墓石が造られていました。治年の墓石は、そうした江戸のモダンなデザインを国元でコピーしたものと いえます。

妙解寺跡には、治年のものと同じ形の墓石が、もう一つあります。それは、治年の妻—埴（はに）の墓石で、治年のものよりも小さめに造られています。埴は、夫治年が亡くなった後、熊本に戻って二本木にあった屋敷で暮らし、享和三年（1803）に亡くなりました。治年の死から16年後のことです。

夫と同じ形で、少し小さめの墓石。そこには、埴の、夫治年に対する愛情と、控えめな妻の姿が表れているのです。

一年間のご愛読、有難うございます。来年は「私たちの町の文化財」と題し、皆様の身近にある寺社・石造物などを紹介していきます。

熊本市文化振興課 美濃口雅朗

治年の墓石

埴の墓石



熊本市の遺跡発掘部
署の皆さんによる
「私たちの町の遺跡」
来年もお楽しみに！

